

CT部門

(リーダー) 石田 智一 (福井大学)
藤岡知加子 (広島大学)
久富 庄平 (山口大学)
佐々木祥之 (信州大学)
三好 利治 (岐阜大学)
小泉 幸司 (京都大学)

グループワーク 命題

- 国立大学病院としての臨床研究とは何か
(研究のseedをどのように見つけるか)
- 学会活動と別に行う意義は何か
(国立大学として求められるレベルはどのあたりか)
- 現在すべき研究は何か
(各分野の国際的最新動向を踏まえて)

国立大学病院としての臨床研究

1) 自施設でCT検査を行っている中・・・

検査方法が確立していない

(撮像方法・造影方法等)

どのような画像情報を
提供すればよいのか分からない



文献等を調べ最適な方法を選択し
検査を行う

国立大学病院としての臨床研究

2) 自施設に最新CT装置、最新機能が導入された

新しい検査方法が可能となるが、

どのような撮影条件、造影法を
行えばよいのか分からない



文献等を調べ最適な方法を選択し
検査を行う

文献等を調べ最適な方法を選択し
検査を行う



文献がない・検査方法が
確立されていない



主治医もしくは検査担当医と
相談しどのような画像や情報が
欲しいかを考える

主治医もしくは検査担当医と相談し
対象症例に最適な検査方法を考える



ファントム等にて基礎実験を行って
考案した検査方法が正しいか
基礎検討を行う



ここまでは大学病院に限らず、
意欲的に研究を行っている施設でも
行われている検討方法

大学病院としては・・・

大学病院の利点を生かして、
さらに確実な検査方法の
確立・文献の作成を行う

大学病院の利点

- 研究機関としての認識が広いため患者さんの協力を得られやすい
- 研究意欲の高い医師やスタッフが多い
- 医療行為に関する倫理委員会が設置

大学病院としては・・・

大学病院の利点を生かして、さらに確実な
検査方法の確立・文献の作成を行う

倫理委員会の承認を得て基礎実験で
検討された方法を臨床応用し、
その結果の正当性を証明して論文
として世間に公開する

大学病院という

- 同じ土俵の上で切磋琢磨する
- 特殊性のある施設間の情報共有

多大学での希少症例・測定値の
データベース化

こんなことができるかも・・・

- ☞ 小児の撮影法
 - ☞ 被ばく量
 - ☞ 治療術式にあった撮像方法
 - ☞ 同じファントムや線量計を保有していることを利用した基礎実験
- } 標準化